

SCENE D: Now, my youngest son, Eric, has such a curious mind.

見本例1 + 2

Now, my youngest son, Eric, has such a curious mind.

For example, he spends hours in the yard watching ants go about their business.

His grandfather, who is a scientist, says he was just like Eric as a child. So, we are pretty excited that Eric may one day also become a scientist.

一方、末息子のエリックは、ものすごく好奇心が旺盛なんです。例えば、何時間も、庭でアリがいろんなことやってるのを見えますよ。彼の祖父が科学者なんです、彼は子供のときにエリックとまったく同じような感じだったと言ってるんですよ。ですから、うちでは、エリックもいつか科学者になるかもしれないなんて、結構楽しみにしてるんですけどね。

my youngest son 末息子

慣用表現 長男は my **eldest** son になります。

... has such a curious mind. ~ は好奇心旺盛です。

to spend hours -ing ~して何時間も過ごす、何時間も~する

パターン構文 「~して何時間も過ごす、何時間も~する、」と言おうとすると、どうしても日本語の発想では「~する」のところをまず動詞で言いたくなってしまうのですが、英語の慣用的な言い方では、まず「何時間も過ごす、費やす」と置きます。それから、「~をして、~をしながら」というのを -ing でくっつけます。とても英語的です。hours のところは、もちろん時間を表す単語であれば、days, weeks, years などすべて OK です。

同じ spend を使って「お金」の方も同じ構文で使われますよ。to spend thousands of dollars taking English lessons とか、to spend a fortune collecting baseball cards などとします。

to go about one's business やらなきゃならないことをせせとする

慣用表現 to go about ... で「~に忙しく取り組む、精を出す」といった意味で、one's business が「自分がやらなきゃならないこと、用事」といったことです。自分の仕事に専念して黙々と働いている様子です。

His grandfather, who is a scientist, says 彼の祖父、彼は科学者なんです、その彼が言うには...

パターン構文 A says that [節] という何の変哲もない構文ですが、そこに割り込みが入っています。主語の A の後で、その主語を「あ、ちなみに、この人って~なんですけどね」と説明する関係代名詞節が割り込んできます。その結果、主語と述語動詞が離れて、聞き取りで苦労しやすい文になっています。

このかたちの文は結構よく出てくるので、この文を使って馴れておきましょう。コツは、割り込んだ節を聞いている間、ずっと「うん、この A さんがどうした...? どうした...?」と述語動詞(ここでは says)を待つ感覚を維持しながら聞くようにすることです。

割り込んだ節が、ここでは who is a scientist で、比較的短い、意味も入ってきやすい内容なのでよかったのですが、この節が長~なることがよくありますから、慣れておく絶対得です。

just like ~と全く同じよう、~にそっくり

パターン表現 just は直後の単語を強調するのがコアの役割です。したがって、ここでは like (~のような)という前置詞を強調している感覚ですから、just like... で「まったく~のよう、~にそっくり」という意味です。

to be pretty excited 結構、楽しみに思っている

パターン表現 to be excited は「わくわくする、楽しみに思う、やる気になっている、燃えている」などですね。それに pretty がついていますが、pretty は very よりも軽く、多少、「意外性」の響きも含んだ感じで、日本語の感覚では「結構」「案外」「割と」といった感じに近いです。